

本当はおいしいはずなのに

埼玉県坂戸市立勝呂小学校 六年 早川 愛彩

「福島のももおいしいんだけどね。」

お母さんの言った言葉が心にひっかかる。

私のおじいちゃんは心配性だ。私には福島のももを食べさせないようにしている。東日本大震災があった時、福島の重要な設備が浸水し、放射性物質が放出した。おじいちゃんは、今でもそのことを気にして、福島のももを食べさせてくれない。たしかに体に害がでたらこわいが、体に害がでないような工夫をしているし、昔より全ぜん大丈夫だということネットを見た。お母さんは、

「福島のももはとってもおいしいから、もつたいないよね。」

と言っていた。それを聞いて私は、福島のももが食べてみたくなった。ももだけではない。りんごやかきなどのおいしいものもある。それなのに、浸水の事故のせいで、一生懸命育てた農家さんの気持ちが無しになってしまう。もう大丈夫だと分かったのに、「一応」という気持ちで他のももを買っている。私はそれでは良くないと思う。せっかく農家さんがていねいにがんばっておいしいももを育てたのに、結局なかなか食べてもらえずもつたいなくしてしまっていると思うとむねがしめつけられる。

だから私は、福島のももを食べてみようと思う。農家さんに感謝して。